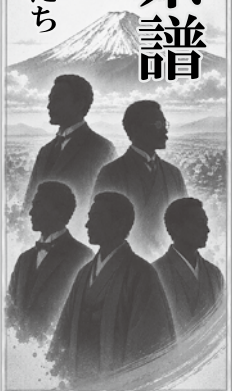


甲斐の系譜

新時代を拓いた
郷土の先人たち



山梨県は日本の近代化に大きく貢献した偉人を数多く輩出している。自主性、公共性、開拓精神という甲州人の気風に基づいた先人たちの挑戦と功績を紹介する。

甲州財閥
根津嘉一郎（1860-1940）



東京地下鉄道株式会社 編「東京地下鉄道史」 昭和9年発行 国立国会図書館デジタルコレクション

経営手腕を発揮

東武鉄道をはじめ、全国の私鉄経営に手腕を発揮し「鉄道王」との異名をとる甲州財閥の一人・根津嘉一郎は、江戸末期の万延元（1860）年、山梨郡正徳寺村（現山梨市）の豪商に生まれた。東京で漢学を学んだ後、故郷に戻り、30代で県

議会議員、村長を歴任。明治30（1897）年ごろ上京した。

すでに日本の実業界で活躍していた甲州財閥の若尾逸平や雨宮敬次郎らと交流し、その影響

を受けながら、鉄道や電力など、近代化を支える事業を中心に投資を行った。ただ、根津は株の配当や売却で利益を得るだけではなく、経営にも積極的に参画。経営が振るわない企業の立て直しに尽力し、徹底した合理主義で臨む一方、必要な投資は惜しみなく行った。

完成した利根川橋梁を走る汽車（東武博物館提供）



東武鉄道を再建

東武鉄道は、明治32（1899）年に北千住―久喜

公益性重視した「鉄道王」

文化・教育振興にも足跡

間が開通。しかし、路線が利根川南岸に到達したところで業績が悪化したため、九州鉄道（現鹿児島本線の一部）の経営改革で名を挙げいていた根津に白羽の矢が

立った。東武鉄道の社長に就任した根津は、社内の無駄な経費を削減するとともに、利根川に大橋梁を建設して路線を延伸。北関東の輸送需要を獲得し、収益の劇的な改善を果たした。

また、富士身延鉄道（現JR身延線）の設立に奔走した堀内良平や、日本最初の地下鉄を開業させた早川徳次など、県出身の後輩が携わる鉄道事業の実現も支援した。

このほか、日清製粉や富国生命など多くの企業を経営。事業の目的については「国家や社会に本当に裨益（へいしき）しようとする真の目的がなくては、栄えるものではない」と

い」と述べ、公益性を重視する姿勢を貫いた。

武蔵大学を設立

根津は財界人として活躍する一方、芸術品の収集家

昭和5年に竣工した山梨県教育会付属図書館（県立博物館蔵）



学）を設立した。県内でも教育関係に多額の寄付を重ねた。昭和5（1930）年、県庁構内に設立された県教育会付属図書館の建設費を寄贈。同館は翌年、県立図書館となり、同45（1970）年、甲府市丸の内2丁目に移転するまで県民の学びを支える公共施設として使用された。

小学校にピアノ寄贈

故郷の旧平等村（正徳寺

でもあり、茶道にも造詣が深かった。「国家の繁栄は育英の道に淵源する（国家の繁栄は充実した教育によって成し遂げられる）」という信念を持ち、生涯にわたり教育文化の振興に従事。大正11（1922）年には、日本初の7年制高等学校として旧制武蔵高校（現武蔵大



平等村の小学校に寄贈された「根津ピアノ」第1号（根津記念館提供）

偉人の言葉

国家の繁栄は育英の道に淵源する

村が合併）の小学校の建設費を寄付し、同校を皮切りに、県下全ての小学校にピアノ計200台以上を寄贈。「根津ピアノ」と呼ばれ、数台が現存している。併せて、当時ほとんどの小学校に無かった顕微鏡やミシン、人体模型なども贈った。このほか、山梨高等工業学校（後の山梨大学工学部）敷地購入費も寄付するなど教育環境充実への貢献は多大だった。

さらに「社会から得た利益は社会に還元する義務がある」と語り、水害や火災の罹災者を支援したほか、山梨市では笛吹川に「根津橋」を建設。それ以前、日下部町から甲府方面へ向かうには、遠くまで迂回しなければならなかったが、根津橋により往来が容易となり、地域の利便性向上に貢献した。

同市では、根津の実家の邸宅を整備し「根津記念館」として公開。国登録有形文化財の長屋門、旧主屋、土蔵などが並び、根津の美意識と文化的功績を今に伝えている。